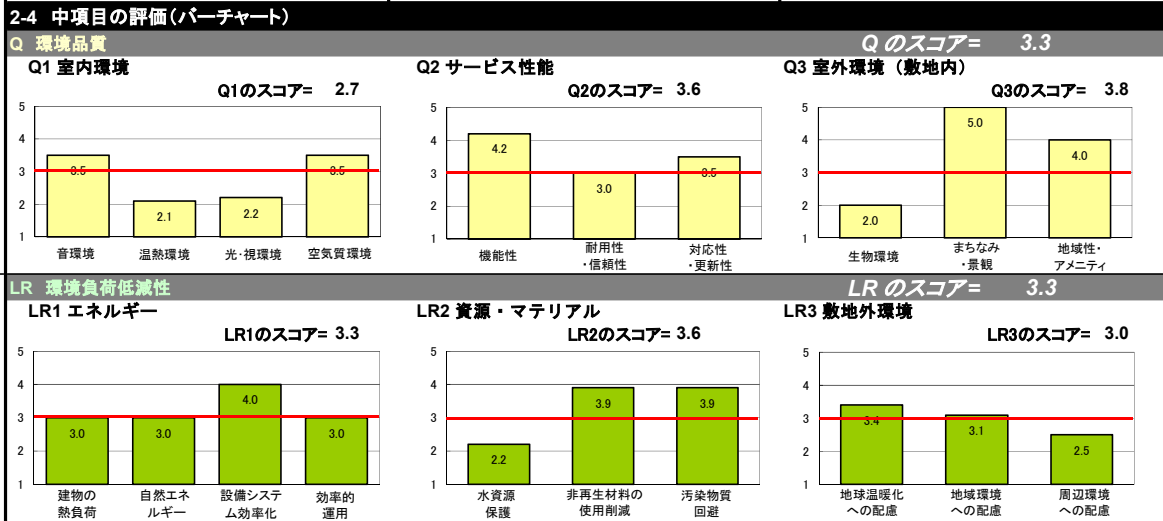
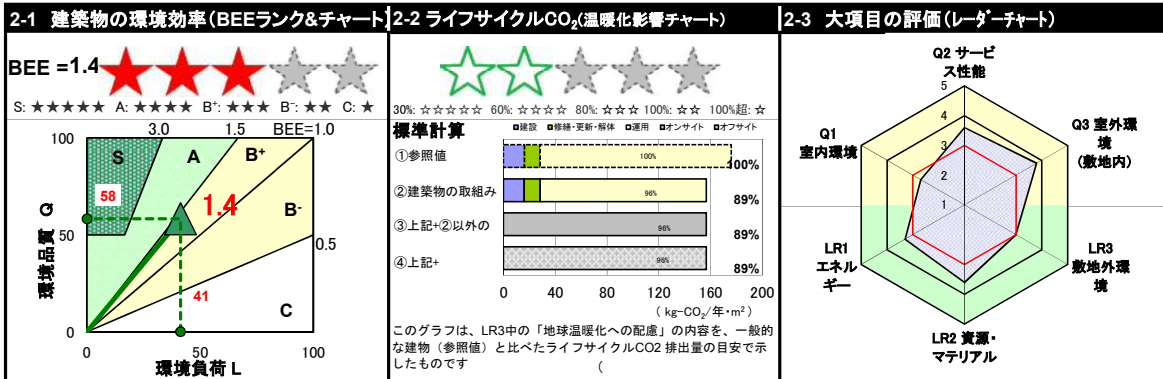


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新東名高速道路 岡崎SA商業施設	階数	地上2F
建設地	愛知県岡崎市宮石町字サクラジリ5-	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	70 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年12月15日
敷地面積	15,276.72 m ²	作成者	大坂 中
建築面積	4,277.34 m ²	確認日	2014年12月15日
延床面積	4,273.18 m ²	確認者	大坂 中



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">9.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">11.8 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>外装材腰壁に花崗岩割肌を使用、また岡崎宿をイメージさせる本格子を採用した</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>石都岡崎や岡崎宿を連想させる内装材の使用により、地域性を持たせている。</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.3	
Q1 室内環境								2.7	
1 音環境								3.5	
1.1 騒音			物販店・飲食店としての騒音レベルを満足している	3.5	0.15		-		
1 室内騒音レベル				4.0	0.50		-		
2 境界騒音レベル				4.0	1.00		-		
1.2 遮音				3.0	0.50		-		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00		-		
2 界壁遮音性能				-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音				壁及び天井部分に吸音材を使用	-	-		-	
2 温熱環境								2.1	
2.1 室温制御			ゾーン別に空調システムを構築している	2.1	0.35		-		
1 室温				3.3	0.50		-		
2 外皮性能				3.0	0.50		-		
3 外皮性能				3.0	0.17		-		
4 ゾーン別制御性				4.0	0.33		-		
2.2 湿度制御				-	-		-		
2.3 空調方式				1.0	0.20		-		
3 光・視環境									2.2
3.1 昼光利用					2.2	0.25		-	
1 昼光率					3.0	0.65		-	
2 方位別開口			-		-		-		
3 昼光利用設備			3.0		1.00		-		
3.2 グレア対策			-		-		-		
2 昼光制御			-		-		-		
3.3 照度			-		-		-		
3.4 照明制御			1.0		0.35		-		
4 空気質環境									3.5
4.1 発生源対策			使用する建築材料から所定のレベルを満足している		3.5	0.25		-	
1 化学汚染物質				5.0	0.50		-		
4.2 換気				5.0	1.00		-		
1 換気量				2.0	0.30		-		
2 自然換気性能				3.0	0.50		-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50		-		
4.3 運用管理				2.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能								3.6	
1 機能性								4.2	
1.1 機能性・使いやすさ			条例及び円滑化誘導基準を満たしている	4.2	0.40		-		
1 広さ・収納性				4.0	0.40		-		
2 高度情報通信設備対応				4.0	1.00		-		
3 バリアフリー計画				4.2	0.30		-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.38		-		
1 広さ感・景観				5.0	0.24		-		
2 リフレッシュスペース				4.0	0.38		-		
3 内装計画				4.5	0.30		-		
1.3 維持管理				4.0	0.50		-		
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保			-	-		-			
2 耐用性・信頼性								3.0	
2.1 耐震・免震			②	3.0	0.31		-		
1 耐震性				3.0	0.48		-		
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.23		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15		-		
				3.0	0.23		-		

2.4 信頼性				3.4	0.19		-	
1	空調・換気設備		②	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.5	0.29		-	3.5
3.1 空間のゆとり				3.8	0.31		-	
1	階高のゆとり			5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ			2.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				3.7	0.38		-	
1	空調配管の更新性		②	4.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性			4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性			5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	3.8
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30		-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	5.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.3
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30		-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0			-	
集合住宅の評価							-	
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	3.6
1 水資源保護				2.2	0.15		-	2.2
1.1	節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63		-	3.9
2.1	材料使用量の削減			4.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.9	0.22		-	3.9
3.1	有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68		-	
1	消火剤			-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3	冷媒			4.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	●		4.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	●		4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33		-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音	●		3.0	0.33		-	
2	振動	●		3.0	0.33		-	
3	悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				1.6	0.40		-	
1	風害の抑制			1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

新東名高速道路 岡崎SA商業施設 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用				5.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>新東名高速道路の休憩施設として、地域性や立地特性を踏まえコンセプト・商業施策を立案している。そのコンセプト等を軸に、意匠並びに施設計画を構築した。具体的には上り線側外観意匠は、東海道の岡崎宿をイメージしている。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>化学汚染物質の低減。 F☆☆☆☆の製品を使用する。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>ご利用されるお客さまの利便性を考慮し、飲食区画と物販区画をが明確に判断できるように区画設定した。また施設内通路幅を4m～6m確保している。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>特になし</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外壁にALCパネルを使用し断熱性を配慮する。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>人体への健康を配慮した製品を使用する。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>高速道路と一体不可分のサービスエリア商業施設としての特性から、施設周辺には影響を及ぼす施設等の配置は無い</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>高速道路の商業施設規模としては大きな施設であり、かつ上下線を集約したサービスエリアのため、お客様が迷うことなくご利用いただくことに配慮し、上下線で異なる意匠計画としている。上り線は前述の「東海道の岡崎宿」としたが、下り線は広葉樹林に囲まれた立地特性から「木」を全面に配した意匠としている。</p>